

当院における週7日リハビリの治療効果～脳卒中片麻痺患者において～

永生病院リハビリテーション部

○ 小川 英明 中島 雅弘 稲川 賢 藤原 純也 岩谷 清一
中本 久之

はじめに：拡大を続ける高齢社会においてリハビリテーションの期待も増している昨今、当院はリハビリテーションの質の向上を目指し、平成20年6月1日より回復期病棟にて週7日リハビリを開始した。今回は脳卒中片麻痺(以下、CVA)患者において週7日リハビリ実施前、実施後での治療効果の比較をまとめたので以下に報告する。

対象：平成19年12月1日～平成20年5月31日まで当院回復期病棟を入退院した発症後2ヶ月以内のCVA患者を週7日リハビリ実施前群(以下、Pre群)とした。また、対象群として平成20年12月1日～平成21年5月31日まで当院回復期病棟を入退院した発症後2ヶ月以内のCVA患者を週7日リハビリ実施後群(以下、Post群)とした。全対象患者はPre群26例〔脳梗塞15名・脳出血10名・くも膜下出血1名〕、Post群29例〔脳梗塞18名・脳出血10名・くも膜下出血1名〕であった。今回は両群の入院時の患者特性を均一化して比較するために入院時FIM運動項目合計点が75点以下という基準にあるPre群21例〔脳梗塞13名、脳出血7名、くも膜下出血1名〕とPost群21例〔脳梗塞14名、脳出血6名、くも膜下出血1名〕で治療効果の比較・検討を行った。

方法：訓練内容はPre群ではPT・OTを各週6回とSTを週5回行った。Post群ではPT・OTを各週6回と日祭日はPT・OTいずれかの一方を行った。STはPre群と同様の週5回を実施した。両群において入院時FIM合計得点(以下、入院時FIM)、退院時FIM合計得点(以下、退院時FIM)、退院時FIMから入院時FIMを引いた利得(以下、FIM利得)、FIM利得を在院日数で除した改善効率(以下、FIM改善効率)、1日あたりのPT・OT合計の実施単位数(以下、実施単位)、在院日数の6項目の平均値を調査し、比較・検討を行なった。

結果：Pre群は入院時FIM61.1点、退院時FIM82.4点、FIM利得21.3点、FIM改善効率0.25点、実施単位3.7単位、在院日数84.4日であり、Post群は入院時FIM66.1点、退院時FIM81.4点、FIM利得15.2点、FIM改善効率0.24点、実施単位4.5単位、在院日数61.3日であった。

上記の結果よりPost群はPre群よりFIM改善効率は0.01点減少したが、実施単位数では0.8単位増加し、在院日数は23.1日減少した。

考察：今回、両群間でのFIM改善効率には大きな差がなかったが、Post群において在院日数の短縮を認める結果となった。FIM改善効率の差については、実施単位の増加量が0.8単位と低値であり、訓練頻度も週6回から週7回への移行であった為、機能改善を行うには十分な増加量ではなかったのではないだろうか。在院日数の短縮については、週7日リハビリの特性である毎日途切れることのないリハビリが影響を与えているのであろう。FIM改善効率も大きな差がないことから、毎日途切れることのないリハビリは訓練の質を維持した上で在院日数の短縮を図れる要因であると思われる。また、在院日数の短縮は、医療費の削減という経済的な側面にも影響を及ぼしているため、週7日リハビリの有用性を示すことができた。

おわりに：今回、週7日リハビリを実施した結果、早期退院を図ることができた。これは週7日リハビリの特性である毎日途切れることのないリハビリが影響を与えていることを示唆することができた。今後、さらに調査を進めていき、週7日リハビリの治療効果判定を向上させていきたい。